

個々の問題の出題の意図及びその正答率

理科 小学校 第5学年

領域	問題番号			出題の意図	評価の観点			正答率	
	大問	小問	通番		科学的な思考	観察・実験の技能・表現の	知識・理解		
A 生物とその環境	1	1	1	発芽の条件について、結果を比較して考えることができる。				65.2	
		2	2	水があるときだけ、インゲンマメが発芽するという結果から、発芽するためには水が必要なことを考えることができる。				84.7	
		3	3	発芽の条件について、仮説をもとにして実験を計画することができる。				63.1	
	2	1	4	インゲン豆の種子の発芽前と後の変化の様子がわかっている。				64.1	
		2	5	発芽前後のインゲン豆の種子にヨウ素液をつけた時の結果がわかっている。				76.6	
		3	6	実験結果から、種子の中の養分が発芽のために使われていると考えることができる。				40.0	
	3	1	7	ヘチマの花のめしべがどの部分かわかっている。				92.1	
		2	8	実験結果から、めしべの先に花粉がつくことでヘチマの実ができてはじめることを考えることができる。				70.4	
		3(1)	9	けんび鏡の安全で正しい使い方が身に付いている。				79.4	
		3(2)	10	けんび鏡の手際よい使い方が身に付いている。				71.2	
	4 選択	A B	11	メダカの卵の様子の変化がわかっている。 お母さんのおなかの中にいる赤ちゃんの様子の変化がわかっている。				89.7	
			12	メダカは、卵から養分をとり入れて成長することがわかっている。 赤ちゃんは「へそのお」から養分をとり入れて成長することがわかっている。				70.3	
	B 物質とエネルギー	5	1	13	くぎぬきを使ってくぎをぬくときの適切な使い方がわかっている。				75.4
			2	14	くぎぬきを使うときの手ごたえの変化について、てこを使って調べる実験を計画することができる。				43.5
3			15	てこを使った実験から、支点から力点までのきょうりが長いほど、加える力は小さくなることを考えることができる。				47.8	
4			16	てこをかたむけるはたらきが同じになるときのきまりがわかっている。				82.6	
5			17	身の回りのでこのはたらきを使った道具がわかっている。				81.2	
C 地球と宇宙	6	1	18	気温のはかり方が身に付いている。				72.9	
		2	19	気温をはかった結果をグラフで表すことができる。				80.5	
		3	20	2つのグラフを比較して、気温の変化の違いを言葉で表すことができる。				66.9	
		4	21	一日の気温の変化と天気と関係付けて考えることができる。				90.4	
	7	1	22	流水のはたらきによって、流れが曲がっているところの内側と外側の地面の変化がわかっている。				84.7	
		2	23	流れが曲がるところの内側と外側では、水の流れる速さがちがうことがわかっている。				61.4	
		3	24	水の流れる量と流水のはたらきの大きさの関係を調べるための実験を計画することができる。				57.4	
		4	25	大雨によって川岸がけずられることを、水の量や地面をけずるはたらきの変化と関係付けて考えることができる。				78.5	